

9.27

交通安全の願いを込めて！

豊滝小学校の児童やPTAなど約120人が、通学路沿いの国道230号で、交通安全街頭啓発を行いました。学校で育てたジャガイモやニンジンに



交通安全を願う手紙を添え、ドライバーや同乗者に手渡しました。

▲「安全運転をお願いします」

9.25

フルート演奏への誘い

すみかわ地区センターで開催されたフルート演奏会。約80人の地域住民が、ゆったりとしたひとときを楽しみました。なじみのあるわらべ歌の演奏が始まると、一緒に口ずさむ来場者の姿も見られました。



▲優しい音色に、気持ちも和みました

10.9

秋の自然を満喫！

八剣山果樹園で行われた八剣山収穫祭。地元農家の「安心・安全」な野菜や果物を買求めたり、丸太切りや野菜当てゲームに参加する人たちににぎわいました。また、乗馬体験や熱気球フライトなどに子どもたちは大はしゃぎ。キノコ汁やジンギスカンも大人気でした。



▲これを切れば優勝だ！



▲お馬さん、ゆっくり歩いてね

見る・知る・遊ぶ

ふるさと⑱

上山鼻渡船場

南区を流れる豊平川。ここには昔、真駒内と上山鼻（現藻岩下）を渡し舟で結ぶ渡船場がありました。

明治初期、開拓使長官黒田清隆は、札幌の街へ石材を運ぶため、山鼻から真駒内を経て石山まで続く直線馬車道（現在の国道230号石山通）を開設。明治九年には豊平川に渡船場を設置し、舟で馬や石材を運んだのが始まりです。場所は現在の藻岩橋の少し下流で、川を隔てた藻岩下側のみゆき通り（南三十三条西十丁目～南三十五条西十丁目付近）と、真駒内側の国道453号を結ぶ通りでした。明治四十二年、山鼻～石山間に馬車鉄道が開通し、渡し



▲『南区開拓夜話』より(和田終太郎画)

舟は馬や石材よりも市街へ向かう人々に利用されるようになりました。大正に入ると、渡船場は洪水の影響により、川の上流（現在の藻岩上の橋の付近）へと移りました。対岸に向かって「オーイ」と渡し舟を呼ぶ声、両岸に張り渡したロープを頼りに長い竿を操りながら往復する渡し守…。こうした風情ある光景は、昭和九年、鉄筋コンクリートの橋（現在の藻岩上の橋の前身）ができたことにより、姿を消すこととなったのです。現在、川辺に公園やサイクリングロードなどが整備された豊平川。かつての渡し舟の面影は残っていませんが、藻岩橋と藻岩上の橋のたもとには、史跡標柱が建てられており、ここに渡船場があったことを物語っています。



▲渡船場跡(藻岩橋真駒内側のたもと)

